

第 11 回 鹿屋市短期経済観測調査(かのや短観)結果概要

「第 11 回鹿屋市短期経済観測調査(かのや短観)」を実施し、結果をとりまとめましたのでお知らせします。

- 平成 30 年 1～3 月期の業況は「やや悪化」。
- 製造業は横ばいで推移。運輸業は改善、不動産業は大幅に改善したものの、その他の業種では悪化、特に宿泊・飲食業は大幅に悪化し、プラスからマイナスに転じている。
- 平成 30 年 4～6 月期の業況は「悪化」する見通し。

業況 DI

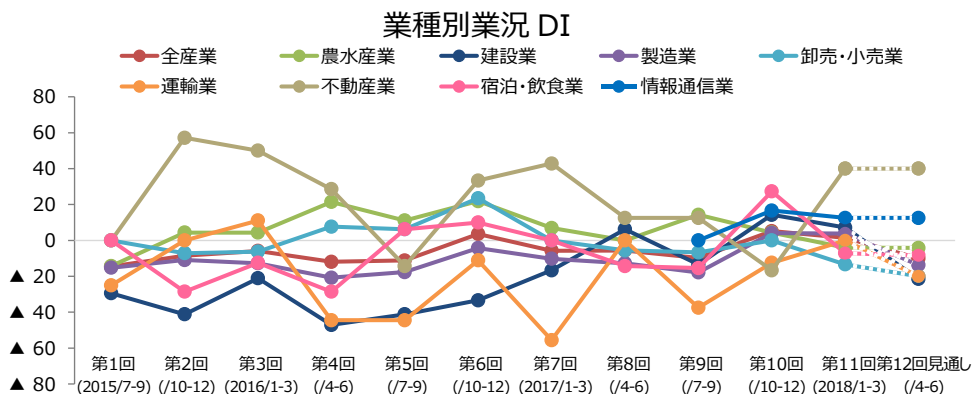
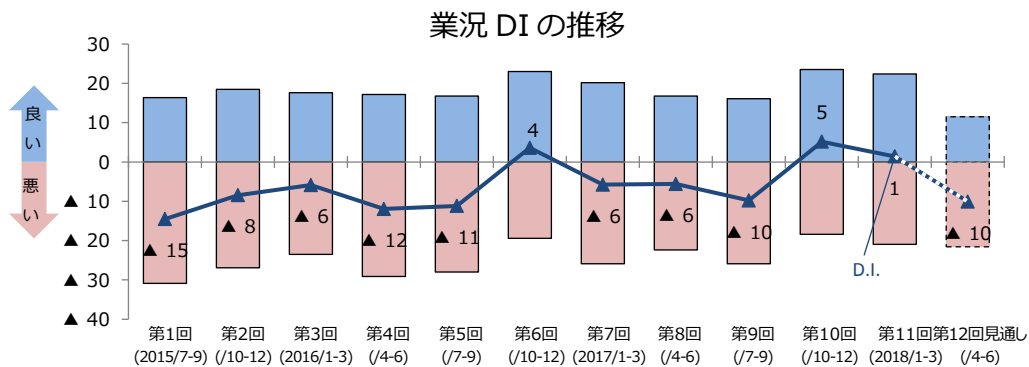
○今期は 1(良い>悪い)と、前期(5)よりやや悪化した。

➤ 業種別では、製造業(前期 4→今期 4)は横ばいで推移。運輸業(前期▲13→今期 0)は改善、不動産業(前期▲17→今期 40)は大幅に改善しマイナスからプラスに転じたものの、情報通信業(前期 17→今期 13)と建設業(前期 14→今期 7)、農水産業(前期 4→今期▲4)はやや悪化、卸売・小売業(前期 0→今期▲13)は悪化、特に宿泊・飲食業(前期 27→今期▲7)は大幅に悪化し、プラスからマイナスに転じている。

➤ 前年同期(▲6)と比較すると、やや改善となっている。

○来期は▲10(良い<悪い)と、悪化する見通し。

➤ 業種別では、不動産業(今期 40→来期 40)と情報通信業(今期 13→来期 13)、農水産業(今期▲4→来期▲4)、宿泊・飲食業(今期▲7→来期▲8)は横ばいとなるものの、その他は悪化し、卸売・小売業(今期▲13→来期▲20)はやや悪化、製造業(今期 4→来期▲14)は悪化、運輸業(今期 0→来期▲20)と建設業(今期 7→来期▲21)は大幅に悪化する見通し。



※ 上記は、主な DI 値の概況です。詳細は「鹿屋市短期経済観測調査(かのや短観)結果」を御覧ください。

概 況

業 況 D I	<p>○今期は 1(良い>悪い)となり、前期(5)より<u>やや悪化</u>した。</p> <p>➢業種別では、製造業(前期 4→今期 4)は横ばいで推移。運輸業(前期▲13→今期 0)は改善、不動産業(前期▲17→今期 40)は大幅に改善しマイナスからプラスに転じたものの、情報通信業(前期 17→今期 13)と建設業(前期 14→今期 7)、農水産業(前期 4→今期▲4)はやや悪化、卸売・小売業(前期 0→今期▲13)は悪化、特に宿泊・飲食業(前期 27→今期▲7)は大幅に悪化し、プラスからマイナスに転じている。</p> <p>➢前年同期(▲6)と比較すると、やや改善となっている。</p> <p>○来期は▲10(良い<悪い)と、<u>悪化</u>する見通し。</p> <p>➢業種別では、不動産業(今期 40→来期 40)と情報通信業(今期 13→来期 13)、農水産業(今期▲4→来期▲4)、宿泊・飲食業(今期▲7→来期▲8)は横ばいとなるものの、その他は悪化し、卸売・小売業(今期▲13→来期▲20)はやや悪化、製造業(今期 4→来期▲14)は悪化、運輸業(今期 0→来期▲20)と建設業(今期 7→来期▲21)は大幅に悪化する見通し。</p>
生 産 高 D I	<p>○今期は 12(増加>減少)と、前期(9)より<u>やや上昇</u>した。</p>
売上・完工高 D I	<p>○今期は 6(増加>減少)と、前期(9)より<u>やや悪化</u>した。</p> <p>➢業種別では、不動産業(前期 33→今期 60)と情報通信業(前期▲14→今期 13)は大幅に改善し、情報通信業はプラスに転じた。一方、宿泊・飲食業(前期 27→今期▲7)は大幅に悪化しマイナスに転じている。</p> <p>○来期は▲9(増加<減少)と、<u>悪化</u>する見通し。</p> <p>➢業種別では、情報通信業(今期 13→来期 38)は大幅に改善するものの、不動産業(今期 60→来期 40)は大幅に悪化、卸売・小売業(今期 0→来期▲20)と製造業(今期 6→来期▲19)、建設業(今期 20→来期▲27)も大幅に悪化しマイナスに転じると見込まれる。</p>
製品・商品在庫 D I	<p>○今期の在庫の過不足感は「過剰」が 6%、「適正」が 79%、「不足」が 14%、DI は ▲8(過剰<不足)となり、前期(▲6)と<u>ほぼ横ばい</u>となった。</p>
製(商)品販売単価 D I	<p>○今期は 2(上昇>低下)と、前期(6)より<u>やや低下</u>となった。</p> <p>➢業種別では、宿泊・飲食業(前期 8→今期 42)が大幅に上昇したものの、建設業(前期 23→今期▲7)と不動産業(前期 20→今期▲50)は大幅に低下しマイナスに転じた。</p> <p>○来期は▲2(上昇<低下)と、<u>やや低下</u>する見通し。</p> <p>➢業種別では、宿泊・飲食業(今期 42→来期 20)は大幅に低下する見通し。</p>
原材料仕入単価 D I	<p>○今期は 51(上昇>低下)と、前期(41)より<u>上昇</u>した。</p> <p>➢業種別では、卸売・小売業(前期 37→今期 36)と情報通信業(前期 17→今期 17)は横ばい、建設業(前期 71→今期 53)は低下したものの、その他の業種は上昇し、特に農水産業(前期 17→今期 38)と宿泊・飲食業(前期 64→今期 92)、不動産業(前期 20→今期 50)は大幅に上昇した。</p> <p>➢製造業(前期 45→今期 56)は上昇、不動産業も大幅に上昇しているものの、製(商)品販売単価 DI は製造業(前期 2→今期▲4)がやや低下、不動産業(前期 20→今期▲50)は大幅に低下しており、仕入価格の上昇を販売価格に転嫁できていない状況であることがうかがえる。</p> <p>○来期は 48(上昇>低下)と、<u>やや低下</u>する見通し。</p> <p>➢業種別では、不動産業(今期 50→来期 25)は大幅に低下する見通し。</p>
資金繰り D I	<p>○今期は▲5(楽<苦しい)と、前期(0)より<u>やや悪化</u>した。</p> <p>➢業種別では、宿泊・飲食業(前期 17→今期▲14)は大幅に悪化しマイナスに転じている。</p> <p>○来期は▲13(楽<苦しい)と、<u>やや悪化</u>する見通し。</p> <p>➢業種別では、建設業(今期 0→▲36)は大幅に悪化する見通し。</p>

概 況	
雇 用 人 員 D I	<p>○今期は▲47(過剰<不足)と、前期(▲47)と横ばいとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶業種別では、製造業(前期▲45→今期▲40)はやや改善、運輸業(前期▲88→今期▲50)は大幅に改善したが、依然として全ての業種がマイナスとなっている。 ▶鹿屋公共職業安定所(鹿屋市、垂水市、肝属郡を管轄)の平成30年1~3月の有効求人倍率の平均は1.38倍となっている。3月の有効求人人数(パート含む)は3,816人、41か月連続の増加となっている一方、有効求職者数(パート含む)は2,900人となっている。 <p>○来期は▲43(過剰<不足)と、やや改善する見通し。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶業種別では、農水産業(今期▲38→来期▲30)と製造業(今期▲40→来期▲32)はやや改善するが、情報通信業(今期▲63→来期▲71)はやや悪化する見通し。 ▶依然として全ての業種がマイナス圏に留まり、労働力不足の状態は続く見込まれる。
損 益 D I	<p>○今期は▲3(好転<悪化)と、前期(▲2)とほぼ横ばいとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶業種別では、卸売・小売業(前期▲5→今期▲20)と運輸業(前期▲13→今期▲30)は悪化、農水産業(前期4→今期▲12)もマイナスに転じている。一方、建設業(前期7→今期13)はやや改善、情報通信業(前期0→今期13)は改善、不動産業(前期17→今期40)と宿泊・飲食業(前期▲25→今期0)は大幅に改善している。 <p>○来期は▲14(好転<悪化)と、悪化する見通し。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶業種別では、卸売・小売業(今期▲20→来期▲13)はやや改善、情報通信業(今期13→来期25)は改善するものの、不動産業は横ばい、その他は悪化し、特に製造業(今期▲2→来期▲22)と建設業(今期13→来期▲13)は大幅に悪化する見通し。

特別質問：賃金について

- 平成29年に定期昇給を含む賃金改定を「実施した」企業は61.4%だった。
 - ▶業種別では、「実施した」と回答した企業割合は、卸売・小売業(80.0%)、情報通信業(75.0%)等で高かった。一方、宿泊・飲食業は「実施した」が42.9%と、「実施しなかった」(57.1%)企業割合を下回った。
 - ▶賃金改定を「実施した」と回答した企業の改定内容について、「引き上げ」が94.4%だった。改定した要因について、「人手不足解消、人材確保策」が47.2%で最も多く、次いで「自社の業績」(37.1%)、「同業他社の改定状況」(9.0%)の順となっている。
- 今年(平成30年)の賃金改定について、「実施予定(定期昇給を含む)」が44.8%、「実施しない」が16.6%、「未定」が38.6%だった。

特別質問：従業員の採用について

- 平成 29 年度に正社員(新規学卒者、中途採用を含む)を「採用した」企業は 67.6%で最も多く、「採用しなかった」が 23.4%、「採用したかったが採用できなかった」が 7.6%だった。
 - 業種別では、「採用した」と回答した企業割合は、卸売・小売業(80.0%)、運輸業(80.0%)、情報通信業(75.0%)等で高かった。一方、建設業では「採用したかったが採用できなかった」が 20.0%を占めた。
- 「採用した」と回答した企業の採用した理由について、「退職者・休職者の補充」が 67.3%で最も多く、次いで「将来の労働人口減少への対策」(18.4%)、「業況の改善」(15.3%)等の順となっている。
 - 人材確保策について、「ハローワークで募集した」が 79.6%で最も多く、次いで「役員、従業員の友人・知人を介して募集した」(25.5%)、「ハローワーク以外の求人サービスを利用し募集した」(24.5%)等の順となっている。
- 「採用したかったが採用できなかった」、「採用しなかった」と回答した企業の人手不足の影響について、「特に影響はない」が 51.1%で最も多く、次いで「売上機会を損失している」(24.4%)等の順となっている。
 - 人手不足への対応について、「現在の人員で十分」が 35.6%で最も多く、次いで「業務の一部を外注している」と「合理化、機械化を進めている」、「派遣社員やパート・アルバイトの雇用を増やしている」(それぞれ 17.8%)等の順となっている。

【調査概要】

- 1 調査対象： 市内事業所 187 先
〔 農水産業 37 先、建設業 20 先、製造業 63 先、卸売・小売業 20 先
 不動産業 8 先、運輸業 12 先、宿泊・飲食業 19 先、情報通信業 8 先 〕
回答数：145 件 回答率：77.5%
- 2 調査時期： 平成 30 年 4 月
- 3 対象期間： 平成 30 年 1～3 月期実績(今期)、平成 30 年 4～6 月期見通し(来期)
- 4 調査方法： 郵送方式
- 5 集計方法： 回答数の構成比を求めた上で、「良い」の構成比から「悪い」の構成比を引いて「D I 値」として指標化しました。
例えば、景況感の「良い」が 10%、「悪い」が 50%の場合、D I 値は「▲40」となります。「D I」(Diffusion Index、ディフュージョン・インデックス)は、企業や業界の景況感などを数値化した指標で、日本銀行の「全国企業短期経済観測調査」(日銀短観)などで用いられています。
- 6 質問項目： 業況、生産高、売上・完工高、在庫、仕入単価、資金繰り、雇用人員、損益、今期損益の好転・悪化要因、自由意見、特別質問(賃金、従業員について)

鹿屋市 市長公室政策推進課

〒893-8501 鹿児島県鹿屋市共栄町 20 番 1 号

T E L : 0994-43-2111 F A X : 0994-42-2001

m a i l : seisaku@e-kanoya.net

